

# 講座『わたしの防災プロジェクト』を実施しました

大阪府豊中市は、阪神・淡路大震災で被災し、活断層もあり、今後も震災にみまわれる可能性も大きい地域といえます。阪神・淡路大震災、東日本大震災で、女性は避難所での不自由さ、生活再建の困難さをはじめ多くの厳しい問題に直面しました。女性が災害時に直面するリスクを共有し、女性の視点での防災対策を進める必要があります。

昨年度、内閣府「平成23年度地域における男女共同参画連携支援事業」として、豊中市内の公共団体、公共施設、教育機関、市民団体等と連携し「とよなか女性防災プロジェクト」運営事業を実施し、冊子「とよなか女性防災ノート」を作成しました。その連携事業として危機管理アドバイザーの国崎信江さんを講師に迎え、女性と防災を考える講座「わたしの防災プロジェクト」を実施しました。

●日時：2013年(平成25年)2月21日(木) 14時～16時

●場所：すてっぷホール ●参加者数：68名

●内容：国崎信江さん(危機管理アドバイザー)のお話

「とよなか女性防災プロジェクト」参加団体からのメッセージ

とよなか女性防災ノート



平成23年度地域における男女共同参画連携支援事業  
とよなか女性防災プロジェクト

すてっぷで配布しています

## 1、国崎信江さん(危機管理アドバイザー)のお話

『わたしの防災プロジェクト～シングル、子育て、高齢…暮らしに合わせた女性の防災対策を考える～』

### (1) 被害想定を知り、地域の防災力を高める

私たち日本人は地震の単のなかに住んでいることを認識し、防災を流行にすることなく取り組んでいかななくてはなりません。豊中市は今後30年以内に震度6弱～7に見舞われる可能性が高い地域です。震度4、5を想定してはだめです。そのギャップが被害へつながります。今、用意すべきは震度7対策です。東日本大震災において行政も庁舎、車両、資材の破損、停電、人員確保の困難さ等、大きな被害を受けました。豊中市の被害想定は死者548人、負傷者4432人(※)、それに対して救助の主力機械は92台です。行政も防災機関もすぐには助けに來られないという意識を持ち、住民による自助力を高める必要があります。(※上町断層系、冬の夕刻、平日18時、晴れ)

高齢者や子連れ世帯等は「体が思うように動かない」「避難所に行きたくても行けない」場合もあるので、あらかじめ被害が少ない土地に住むことも考えましょう。先人が付けた地名が土地の成り立ちを示していることもあります。「沼、池」など水にちなむ文字がつく土地は、かつてそうであり地盤が弱い場合もあります。海沿い、海拔、水はけ、活断層、埋め立て、盛土などを考慮し住む土地を見直し、自宅を強くすることも大切です。

### (2) 避難所で女性、高齢者、子どもが困ったこと

避難所では夜間のトイレ、見知らぬ住民同士が雑魚寝をする恐怖、着替える場所や下着を干す場所がない、寝ている間に物を盗まれる、暴行、性暴力、窃盗など多くの問題があります。女性や子どもは昼夜問わず一人で出歩かない、防犯ブザーを持ちましょう。被災地には気持ちの高ぶりがあり、普段なら許されない窃盗や暴行等の犯罪がなんとなく見過ごされてしまう感じがあります。

高齢女性が困ったこととして「仮設トイレは和式が多く使いづらい」「義歯ケースを持ち出せず洗浄できなかったので、栄養不足で免疫力が低下した」「口腔内の菌が繁殖して誤嚥性肺炎になった」「ダンボールやファニチャーでつくった多目的スペースは使いづらい。単一目的のスペースにして欲しい」などがありました。トイレに並ぶだけでも数時間かかることもあります。自治体のトイレの設置基準は100人に1基、101人目並んでいたら一人2分として3時間20分。人は2、3時間で尿意をもよおすので出たらすぐ並ばないと間に合いません。起きてる間ずっと並ぶことになります。そうすると人は水分をひかえる→血が固まり血栓となる。漏らす→着替えがない→風邪をひく→病院にかかれぬ→重症化するというケースもあります。簡易トイレの用意は欠かせません。

子どものことで困ったこととしては「水が十分に得られない状況で歯磨きが疎かになり虫歯になりやすい」「赤ちゃんを寝かす場所がない」などがありました。これに対しては、歯磨きシートの備え、子ども用スペースの確保、ベビーカーの用意などで対応します。自宅が被害を受けていないなら自宅にいた方が安全な場合もあります。

### (3) 家庭のできる防災対策

まず自宅からできるだけ家具を減らしましょう。家具は凶器になります。生活雑貨の素材の見直しも。木製ガラスの写真立てが壊われ、ガラスのフレームが子どもの額にあたり「あと2センチずれていたら失明」というケースもありました。ガラス、陶器という素材を見直すことで安全性は高まります。「揺れたらテーブル」と思いがちですが、テーブルを固定してないと意味がありません。家具も走ります。寝る部屋には物をおかない、通路をふさがない。壁の飾り棚も流行っていますがこれも危険です。車いすは家のなかでもロックしておきましょう。

家でもっとも危ないのはキッチンです。シンクと食器棚にはさまれるので揺れたらすぐキッチンから離れましょう。キッチンに物をおかない。炊飯ジャーを使ったらしまう、保温しない。断水したときに一つでも多く食器

を確保しておくためにシンクに食器を残さない。包丁も危ないので調理が終わったらすぐに片付けます。東日本大震災で我が家は震度5でしたが、食器棚に飛散防止フィルムと滑り止めシートを使っていたので、お皿が全く動きませんでした。ご近所は大変だったようです。滑り止めシートは100円ショップで売っています。

冷蔵庫、食器棚、家具は固定し、扉にはストッパーをつけます。我が家では子どもが物心ついたときから、冷蔵庫の扉にストッパーがついていたので、子どもは冷蔵庫にはストッパーがついて売られていると思っていました。子どものうちから慣れているので、ストッパー付冷蔵庫の開閉を特に面倒とは思っていません。大人だけが面倒と思う。家に鍵をかけるのが面倒ですか？それと同じくらいストッパーも当然と思えるようになります。これは家庭でできる防災教育。日頃の生活習慣から、防災への取り組みをはじめましょう。

#### (4) 避難用具は1次品、2次品、3次品とそろえる

避難用品は3日分と思われていますが相当な分量になり、緊急時に持ち出すことができません。まず1次品を持ち出す準備をします。ウエストポーチ、防災ベストに必要な物を入れ、ハンガーにかけておきます。「逃げろ」で手にとって走ることができる軽くコンパクトな物。3日分詰め込んだリュックはかさばるので玄関に置くと邪魔で、しまいがち。ベストなら邪魔になりません。まずベストで必要最小限をしっかりと持ち出すことです。そして非常用リュックが2次品。3次品としてかさばる物、カセットコンロ、寝袋、ランタンなどを用意します。災害の大きさから考えると3日後に救済など不可能なので、3日分でなく10日分用意したほうがいいです。我が家は1カ月分用意しています。女性はブラジャーつきのタンクトップ（下着を干す場所がないのでブラジャーよりタンクトップを干す方がいい）が役に立つのでセールがあれば買っておきましょう。また初期消火と避難を両立し、小さな子ども、妊婦が逃げることを優先に考えた投げたら逃げるタイプの消火器を用意しておきます。

飽食の時代、乾パンを買う必要があるのでしょうか。カセットコンロと鍋で料理ができるので、普段食べる物を1月分大目に用意しておきます。普段から大目に用意して食べたなら補充する習慣をつけましょう。

家族の話し合いも大切です。待合わせ場所と連絡方法を決めましょう。避難所は人であふれかえっているので「〇〇小学校」ではなく「〇〇小学校の鉄棒の横に何時」と具体的に。災害時伝言ダイヤル、災害用伝言板、地域のラジオ局、また被災地以外に住んでいる親戚、友人を通しての連絡がつながりやすい場合もあります。最優先は生き抜くこと。生きていれば会えます。どんな防災をするのか考えながら、積み重ねていくことが大切です。

#### 国崎信江(くにざきのぶえ)さん プロフィール

横浜市生まれ。危機管理アドバイザー。危機管理教育研究所代表。女性として、生活者の視点で防災・防犯・事故防止対策を提唱している。文部科学省地震調査研究推進本部政策委員、防災科学技術委員などを務める。また、NPO国境なき技師団の一員として、海外での防災教育活動なども行なっている。著書に『決定版！大地震から子どもを守る50の方法』（ブロンズ新社）『サバイバルブックー大地震発生その時どうする？』（日本経済新聞出版社）『マンションみんなの地震防災BOOK』（つなぐネットコミュニケーションズ）。

★すてっぷ・情報ライブラリーに国崎信江さんの著書があります★



## 2、「とよなか女性防災プロジェクト」に参加された団体からのメッセージ

### ●生活協同組合コープ自然派 ピュア大阪

生協は地震のあと一番に被災地に入りました。だから「最後まで被災地にいよう」と組合員のみなさんと一緒に被災地でボランティアを続けています。防災士の資格をとろうとしている職員もいます。この防災プロジェクトでつながった経験をいかし、組合員のみなさんと一緒に防災マップをつくることを考えています。

### ●男女共同参画社会をつくる豊中連絡会

豊中市でも地域防災計画の見直しが進み防災会議に女性が参加し、避難所運営に女性がかかわること、女性専用スペースの設置等が加えられました。災害時要援護者避難支援プランも進んでいます。男女、性的マイノリティの方、高齢者、障害者、子どもたち、外国籍の方と多様性に配慮した視点を持ち、当事者の意見を聞いて欲しいと思います。東北へ行きまだまだ支援の必要を感じています。福島原発事故で原発はこりこりであったはずが原発推進へ舵取りが進んでいることに危機感を感じています。震災、原発事故のことを忘れないことが大切です。

### ●豊中市婦人団体連絡協議会

自分を守り、家族を守り、地域を守るという観点で議論し活動してきました。リュックサックを購入したり備品をそろえましたが、今日の話で「ベスト一日分」を知りました。防災関連の講演会への参加、防火対策、防災用具の検討などを進め 身近なところから尊い命を守ることを徹底していきたいと思います。

### ●豊中女性防火クラブ連絡協議会

避難袋のなかで一番大事な物はホイッスル。建物の下敷きになってしまうと声も出ません。ホイッスルとLEDが一体化したものに安全ピンをつけています。家具の転倒防止には100円ショップで売っている発砲スチロールのブロックを天井まできっちり積み隙間に新聞紙をつめれば倒れません。自分の命は自分で守る、家族の安全を確保したら地域を守る、自助、共助で近所は「近助」。普段からの近所付き合い、顔見知りになっておくことが大切です。

主催：財団法人とよなか男女共同参画推進財団

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-501

<http://www.toyonaka-step.jp/>

Tel. 06-6844-9773 Fax. 06-6844-9706